

会 議 録

会議の名称	令和4年度第2回宍粟市地域公共交通会議	
開催日時	令和4年9月28日（水）10時～12時	
開催場所	宍粟市防災センター5階大ホール	
議長（委員長・会長） 氏 名	富田副市長	
委員 氏 名	（出席者） 別紙のとおり	（欠席者） 別紙のとおり
事務局 氏 名	市民生活部：森本部長、山本次長 まちづくり推進課：中尾次長兼課長・福田副課長兼係長・上川主事 一宮市民局：木村主事、波賀市民局：瀧本主査 千種市民局：幸福主事、障害福祉課：森谷係長	
傍聴人数	0人	
会議の公開・非公開の 区分及び非公開の 理由	公開・非公開	（非公開の理由）
決定事項	（議題及び決定事項） ■ 議題 （1）「地域公共交通計画」の策定に向けて ①地域公共交通活性化再生法の改正と地域公共交通計画の概要について ②計画策定の進め方及び今後のスケジュール ③現況把握に向けた各種調査の実施(案) （2）宍粟市の地域公共交通を取り巻く現状について （3）宍粟市の地域公共交通の現状・問題意識等についての意見交換 ■ 報告 （1）三方・繁盛地区における路線バス代替手段について	
会議経過	別紙のとおり	
会議資料等	別紙のとおり	
議事録の確認 （記名押印）	（委員長等） _____ 富田 健次 _____ (印)	

(会議の経過)

発言者	議題・発言内容
事務局	※開会
会長	※2 あいさつ
会長	①地域公共交通活性化再生法の改正と地域公共交通計画の概要について、兵庫陸運部より説明をお願いします。
委員	※①地域公共交通活性化再生法の改正と地域公共交通計画の概要について説明
会長	何かご意見等あるか。なければ②計画策定の進め方及び今後のスケジュールについて、事務局より説明をお願いします。
事務局	※②地域公共交通活性化再生法の改正と地域公共交通計画の概要について説明
会長	何かご意見等あるか。ないようであれば続いて③現況把握に向けた各種調査の実施(案)について、事務局より説明をお願いします。
事務局	※③現況把握に向けた各種調査の実施(案)について説明
委員	アンケートの配布数 2,100 世帯というのは宍粟市の世帯数全体のうち、どの程度配布していることになるか。
事務局	現在、宍粟市内の世帯数は約 1 万 4 千世帯であるので、全体の約 15%の世帯に配布している。
委員	回答者の住所は把握しているか。
事務局	郵便番号を記入していただく質問を設けているため、把握可能である。
委員	路線バスの利用区間や、利用頻度等が分かるか。
事務局	質問として設けているため、把握可能である。
委員	どういった人がどこからどこまで、どれくらいの頻度で利用されているか分か

	るので基礎資料としてしっかりしたものだと思う。
委員	どのようにアンケートを配布したのか。
事務局	郵送で配布しており、郵送または Web で回答していただく形式の 2 通りで回収を行っている。
会長	路線バス利用環境調査、交通事業者へのヒアリング調査の進捗状況はいかがか。
コンサルタント業者	現在、調査及び検討を進めている最中である。
会長	(2) 宍粟市の地域公共交通を取り巻く現状について説明をお願いします。
事務局	※(2) 宍粟市の地域公共交通を取り巻く現状について説明
会長	何かご意見等あるか。なければ、続いて全国的な地域公共交通の現状、交通事業者の現状・今後の展望について、コンサルタント業者、各委員から説明をお願いします。
コンサルタント業者	※全国的な地域公共交通の現状について資料説明
委員	6月の乗合バスはコロナ前と比較して回復傾向にあったが、第7波の影響で再び減少傾向に転じている。収入源である高速バスや貸切バスはコロナ前と比較してそれぞれ約6割、約3割と厳しい状態である。苦しい状態であるが、地域の足を維持するため、収入を増やすための取組みの一つとして貨客混載などの取組みを進めている。百貨店やスーパーと連携し、野菜等を高速バスで運び、山崎停留所で商品を販売するなど行った。他に日本郵便と連携し郵便貨物の輸送なども行い、路線維持のための重要な取組みの一つとなっている。その他に自転車を活用した取組みも行っており、県民の交流人口の拡大に努めていると認識している。現在乗務員不足が深刻な中、コロナ対策などを入念に行っている。
委員	路線バスの維持活性化に向け、4年ほど前から西播磨・但馬・丹波・淡路島の4エリアで路線バス乗り放題の企画を行っている。観光客の増加を狙ったものであり、徐々にではあるが、利用者は増えてきている。お配りした資料をご確認いただければわかるかと思うが、コロナの影響で事業をやめた例も多くある。廃止した路線を補完するために、県民交流バスなどの取組みをしている。公共

	<p>施設への立ち寄りや体験をしていただくことを条件に補助を出す制度であり、一定期間ではあるが公募しているので、こうした助成制度を活用いただきたい。また、運転免許の返納に向けた取組みも併せて進めている。</p>
委員	<p>タクシー業界は路線バス同様、厳しい状況であり、利用者はコロナ前の約3割減となっているが、地元に着した取組みを進めている。バス停の増加を望まれているという声は聞いているが、利用者がどの程度あるかわからないということで、1年前に要望によりダイヤを変更したが利用者がほぼなかった経緯がある。ダイヤ変更等についてはよく検討いただきたい。</p>
委員	<p>厳しい状況の下、交通事業者には頑張ってもらっている中で、一層厳しい状況であることを改めて認識した。交通安全については取組みを進めているが、みなさまのご協力のもと取り組んでいく必要がある。残念なことに、宍粟市内で本年1月に死亡事故が1件生じた。人身事故は現時点で57件となり、昨年より20件程度人身事故は減っている。57件のうち、約半数は高齢者が被害にあっている。約4～5人に1人が65歳以上のドライバーであり、こうした状況を踏まえ、高齢者に対する安全教室や啓発活動などを行い、運転免許の返納に関する取組みを進めている。余談であるが、市内のバス・タクシーの運転について、横断歩道手前で、歩行者が渡るかそうでないかわからない場合でも、しっかり一時停止をしている様子を見てプロ意識を感じた。現在、交通安全期間でだが、残念なことに期間中に大きな事故が発生した。このような悲惨な事故がないように取り組んでいきたいと考えているので、ご協力をお願いしたい。</p>
委員	<p>交通事業者へお聞きするが、今後、宍粟市における車両や運転手を継続的に供給していくことはできるのか。</p>
委員	<p>運転手は40歳以下が非常に少ない。50代でも若い方に入る。運転手の確保に向けた有効策がなく、先行きが見えず資金も十分に無い。市内北部の車庫まで出勤できる運転手がそもそも少なく、人口の少ない地域での運転手確保が大きな問題である。車両については、神姫バスからの払い下げもなく、全国的に中古車も高騰しており、確保に苦労している。本来廃車すべき車両を延命しており、運転手・車両ともに厳しい状況である。</p>
委員	<p>市内の地域公共交通の再編以降、利用者が増加した路線もあるが、小型バスで利用者が非常に少ない路線も多く、各地域の需要について再検討が必要である。他事例の紹介があったが、人口規模が異なっており、宍粟市にそのまま適応させることは難しいが、地域主体という点では共通する部分があるので参考にな</p>

	<p>ると思う。地域が主体となった運行に関する取組みを策定予定の地域公共交通計画に盛り込む必要がある。</p>
会長	<p>非常に厳しい現状であることはご理解いただけたかと思う。</p>
委員	<p>コンサルタント業者にかかる費用が高いと思っていたが、上手くやっていただけると期待している。先ほど発言があったように運転免許証の返納については常に考えているが、車がないと移動できない。90代の人で運転免許証を更新した人がいることを聞いたことがある。宍粟市で暮らしていくには運転免許証が無くてはならない。返納したいとは思っているが、鉄道がないので、バスを増やしてほしいと思う一方、交通事業者が大変だということはよく認識した。助けてくれる人がいる場合は良いが、そうでない場合は公共交通が非常に重要となる。採算が合わない等の話もあるだろうが、うまく運営するための検討をして欲しい。また、三宮まで行く高速バスを利用したいという気持ちはあるが、三宮は人通りが多く、新型コロナウイルス感染症が怖くて利用できない。ニュースを観て、神戸の百貨店の商品が山崎までバスで運ばれてきて購入できるイベントがあったと知ったが、そうした情報をもっと発信してほしい。</p>
委員	<p>経営収支比率がかなり低くなっているが、どのように算出しているのか。この経営収支比率では経営できないと思うが、どの程度、宍粟市が補助しているのか。一部、市内路線の記載がないのはどういう理由か。最近、自転車での移動が流行っているが、こういった方々に宍粟市の公共交通に利用いただくような取組みをしてはどうか。このような運営状況では便数も増やせないと思う。便数が少ないから利用者が増えない。免許所有率が高いということだが、高齢化が進行するなかで免許返納が増えてくるはずなので、地域公共交通の需要も増えるのではないか。市民への利用促進も限度があるので、市外から来る人への利用促進など、他事業との連携を考えていく必要があると思う。</p>
委員	<p>経営収支比率は発生した収益に対する費用である。国と宍粟市から補助を受けており、赤字を補填している状態である。</p>
委員	<p>赤字分は全て補助で賄っているのか。</p>
委員	<p>はい。</p>
事務局	<p>今日の資料で提示している表は、フィーダー系統のみを抜粋しており、資料に記載のない他路線についても同様に宍粟市から補助している。事業者との連携</p>

	<p>については、貨客混載や市外の方の利用促進など、事業者と相談しながら、取組みを進めていきたい。</p>
委員	<p>宍粟市公共交通再編計画策定時に、収支比率に対してどの程度の目標を設定していたのか。</p>
事務局	<p>収支率について目標値は定めていない。利用者について、大型バスは平均乗車密度 2.0 人、小型バス 1 便あたり 1.5 人の目標設定をしていた。</p>
委員	<p>1 便あたり 1.5 人というのは経常収支比率として何%なのか。行政としてどのように考えているのかお聞きしたい。</p>
事務局	<p>再編時に利用促進として、運賃を一律 200 円としている。運賃の一律化によって、本来、事業者が得るはずである収入については宍粟市が負担しており、経常収支比率が低い要因となっている。経常収支比率ではなく、1 便当たりの利用者数を目標として、取組みを進めていたことを認識いただきたい。</p>
委員	<p>税金には限りがある。今の話だとどれだけ財政がひっ迫しているのかわからない。他市の事例を聞いたが、仮に経常収支比率 50%を目標としても現状では破綻している。これを改善しようとは思わないと思う。この現状分析を見て行政はどう考えているのか。</p>
事務局	<p>宍粟市公共交通再編計画策定時に財政指数を考慮して目標値を立てている。黒字になることは難しい。それを前提としたうえで、効率性や使い勝手の良い移動手段を考えていくことが今後の方針になると考えている。赤字路線があるのは宍粟市の特性として仕方がないものであり、収支の改善は難しいと考えている。</p>
委員	<p>赤字は仕方がないが限度がある。路線ごとでどれだけ費用がかかっているかわかるようにするべき。</p>
委員	<p>これらの路線で採算を取れというのは難しいと思う。</p>
委員	<p>目標が無いのでは見直しができない、ということを言っている。</p>
委員	<p>市全体としての目標を考えていくべきだと考える。山の方に住んでいる人の移動が難しいのは仕方がないが、だからといって地域公共交通の運行をやめるわけにはいかない。</p>

委員	効率的に移動ができる交通網を作ってほしいと思っている。今の問題が何で、何を改善すべきか、この現状分析を見てもわからない。
事務局	今回はあくまで現状を示している。示し方については今回のご意見を受けて、検討させていただく。計画策定のあり方については、スケジュールをお示ししているが、来年度の計画策定の際に計画全体について、皆さまと共に考えていきたいと考えている。
委員	住民が公共交通に合わせるということでは使い勝手が悪い。使いたい住民が使えるような形態にすればよい。発想を変えていく必要がある。市民のニーズの吸い上げが必要で、市民の要求に合う取組みをしていただきたい。
委員	田舎の人は自分の都合に合わせて動く習慣があると思うが、ある程度は、バスの時間に合わせて動く習慣をつけていく必要があると感じている。
会長	報告（１）三方・繁盛地区における路線バス代替手段について事務局より説明をお願いします。
事務局	※報告（１）三方・繁盛地区における路線バス代替手段について説明
委員	協力金は払わなくて良いのか。
事務局	任意としている。
委員	兵庫陸運部には相談はしたか。何台で運行するのか。
事務局	事前に相談はしている。基本１台である。予備に１台あり、２台とも軽自動車である。
会長	他に何かあるか。
委員	10月1日からウエスト神姫は神姫グリーンバスと合併し、ウイング神姫に社名を改め、山崎インター近くの事務所に本社を置くことになった。
副会長	※閉会

発言者の表記は、「〇〇委員」、「事務局」とする。